



物販・飲食コーナー営業時間

4月～11月 9:00～17:00

12月～3月 9:00～16:00

定休日：火曜日・年末年始

火曜日が祝祭日の場合は営業します。  
その翌日は振り替え定休になります。



多目的棟

風薫る森の回廊（木製アーケード）



コミュニティセンター  
市役所出張所

展示コーナー  
(休憩スペース)

診療所

軽食



情報コーナー

物販・特産品コーナー

軽食



おくえいげんじけいりゅう さと

道の駅「奥永源寺溪流の里」は、滋賀県と三重県の県境近くに位置し、いまでも日本の原風景が色濃く残る山村と琵琶湖の源流のひとつ「愛知川」が流れる自然豊かな場所に建つ、旧政所中学校を再活用し誕生した道の駅です。従来の道の駅機能に加え防災や医療、行政機能など地域住民の生活を支える拠点を兼ね備えた施設として注目されています。

周辺には、古くは朝廷や彦根藩にも献上され、その名を全国に知られている幻の銘茶「政所茶」の産地があり、また惟喬親王(これたかしんのう)が周辺の住人に木工技術を伝授したことから始まり、日本各地に伝わったと言う伝説がある「木地師のふるさと」としても脚光を浴びています。



名神八日市ICから国道421号を東に 約25分

東名阪自動車道桑名ICから国道421号を西に 約40分



JR「近江八幡駅」下車/乗換→近江鉄道「八日市駅」下車/乗換  
→近江鉄道バス【永源寺車庫行き】「永源寺車庫」下車/乗換  
→ちよこつとバス【君ヶ畑行き】「奥永源寺溪流の里」下車すぐ



道の駅 奥永源寺溪流の里

〒527-0207 滋賀県東近江市蓼畑町 510 番地

URL: <http://www.city.higashiomi.shiga.jp/category/14-0-0-0-0.html>

E-mail: [okueikrs@e-omi.ne.jp](mailto:okueikrs@e-omi.ne.jp)

TEL&FAX 0748-29-0428

事業主体：東近江市

運営組織：奥永源寺溪流の里運営協議会



H27.10現在

道の駅 奥永源寺溪流の里



Since Oct.10th,2015

三筋の滝

## ●展示コーナー

# 森の中の小さな水族館



夏でも冷たく、川底まで澄み切った愛知川の源流。そこに生息するイワナやヤマメなどの「溪流魚」から、「琵琶湖」に生息するフナやモロコなどが泳いでいます。「森の中の小さな水族館」を、ぜひお楽しみください。



四季折々に、彩り鮮やかな表情を見せる鈴鹿の山並み。そこに自生する高山植物が咲かせる花々の写真を展示しています。可憐で美しい花の競演をお楽しみください。



奥永源寺から日本各地に広まったとされる木地師発祥の地の歴史や、その技法を解説したパネルや道具類の展示と、その技を受け継ぐ伝統工芸士が手掛けた貴重な木地製品を展示しています。

## ●グルメ

一枚の皿の中にダムを再現した、見た目も楽しい「永源寺ダムカレー」や、自分で焼く近江牛100%の「東近江バーガー」など、個性的なメニューが味わえる2つの軽食店がごぞいます。



## ●人気者と一緒に記念撮影！

いまや知名度全国区！東近江市発祥の人気キャラクターが、カップルバージョンで登場！ここで一緒に写真を撮ると、恋が叶うかも？！



## 特産品コーナー



店内の特産品コーナーでは、名産の「永源寺こんにゃく」や幻の銘茶「政所茶」をはじめ、清流にしか生息しない岩魚やアマゴをまるごと一匹使った姿煮、自然豊かな山間部を飛ぶミツバチから採取された新鮮で濃厚な「はちみつ」や、生産が盛んな「マイタケ」等々、地元ならではの品々や、毎日焼きたての種類も豊富なパンが並びます。また、道の駅周辺は木地師のふるさとして木工の盛んな土地柄から、木作家が創作した作品なども店頭と並んでいます。

**永源寺こんにゃく**（えいげんじこんにゃく）は、こんにゃくの種類。滋賀県の伝統食品です。大本山永源寺の開祖である寂室元光禅師が、大陸からコンニャクイモを持ち帰ったのが起源とされ、大本山永源寺周辺で細々と作られ、自家消費されていました。永源寺では精進料理に、周辺の農家では正月料理として好まれ、その後、永源寺にちなんだ「永源寺こんにゃく」の名が広まり、地域外でも売られる名産になりました。

**政所茶**（まんどころちゃ）は永源寺こんにゃくと並び歴史は古く、室町時代に大本山永源寺五世管長の越溪秀格禅師が水質・地質が茶の栽培に適していることを見つけ、村人に栽培を奨励したことに始まり茶摘み歌でも「宇治は茶所、茶は政所…」と歌われ宇治茶と並ぶ茶どころとしてその名を全国的に知られています。古くは朝廷や彦根藩にも献上されましたが、少子高齢化などによって、政所茶の生産量は減少の一途をたどり、現在では30軒ほどの農家で生産される希少な幻の銘茶となっています。